

明確なキャリアパスの提示

岡山大学

- ・4名の特任助教 → H22年度4月より**助教**として**正式採用**。
医局とは独立し、TRを継続するポジション。
- ・2名のOJT mentor(スーパーバイザー)准教授
新医療研究開発センター・**教授**に就任。
→ 消化器腫瘍外科(第一外科)の**教授**に就任。
→ **TR実績を重視**した選考

地域連携 TR人材育成

- ・四国がんセンター 臨床試験支援室 → 助教2名の要請
- ・香川大学 先端医療開発センター設置 → 助教1名の要請

岡山大学大学院・博士課程： TR医師育成コース設置

1. コース概要

遺伝子治療、細胞治療などの臨床研究の方法を理解し、TRの実践、マネージャーとしてTRを管理・推進ができる医師、歯科医師ならびに薬剤師の育成を行う。

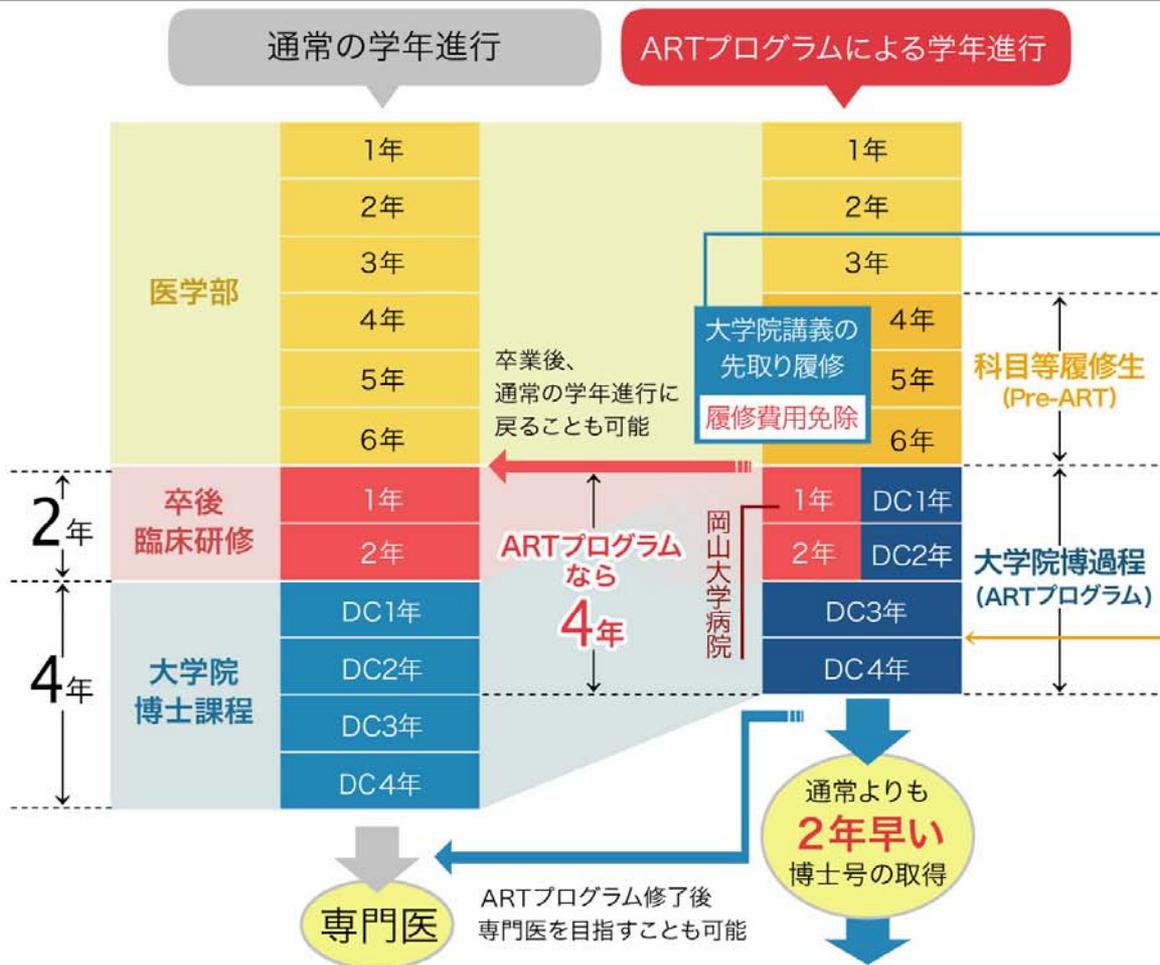
2. コース内容

- ・座学
- ・OJT(On the Job Training、研究現場における実践教育)
- ・他施設での研修

(PMDA、四国がんセンター、山口大、
ベイラー医科大学・細胞遺伝子治療センターなど)

医学教育改革

卒後臨床研修と大学院を並立させるARTプログラム開始



01 奨学金制度

ARTプログラムでは、奨学金制度が整備されています。学業に打ち込めるよう、経済的支援を行っております。

02 学部在学中に大学院講義の単位を取得可能

岡山大学医学部に在学の場合、「科目等履修生」になると、学部在学中に大学院の講義を受講することが可能です。単位として認められますので、大学院進学後の講義負担が減り、より多くの時間を研究に充てることができます。

03 卒後研修と大学院を同時に さらにDC3年での早期修了も可能

卒後研修開始と同時に大学院に在籍します。学部から大学院へのシームレスな進学で、研究意欲の維持促進を実現します。

博士号を活かした多彩な進路

- 大学 (基礎系/臨床系)
- 国立研究所 (主任研究員) (研究スタッフ→教授職)
- 基幹病院 (指導的医師)
- 公的機関 厚生労働省・米国国立がん研究所 (NCI) など

臨床研究医師

まとめ

- ・ミッションステートメントを達成。
 - ・人材育成プログラム作成(座学用シラバス・カリキュラム・海外派遣・OJT教育)
 - ・育成支援プログラム作成(新医療研究開発センター設置、ユニット型教育)
 - ・4人の特任助教を助教に採用、准教授2人を教授に採用しTRを継続する体制を作った。
- ・医学教育改革を実施
 - ・卒後臨床研修と大学院をつなぐARTプログラムを開始した。
 - ・大学院TRコース設置(平成23年度)
- ・TR人材育成の成功例ができた。
- ・作成したシラバス・カリキュラム等は普遍的な資産として全国で活用できる。

しかし、

- ・臨床研究者・TR人材が絶対的に不足している状況は改善していない。3年前よりむしろ悪化。
- ・日本では優れた基礎研究成果(シーズ)が社会に還元されていない。→我が国の利益にならない。将来の医療費負担の増加。
- ・TR人材を育成することはライフサイエンス分野におけるイノベーションそのものと言える。

補完的課題を実施した立場からの提言

- ・この成功例をモデルとして、TR人材育成拠点を各地区に形成（5拠点程度）
- ・各拠点でのコンソーシアム形成とネットワーク化、国際連携による人材育成
- ・医師だけでなく関連する人材育成のシステム化
看護師、薬剤師、統計解析者など
- ・産業界との連携推進
- ・真の臨床研究・TR推進のための支援システム構築（混合診療の問題等）
- ・医師主導の臨床研究推進の支援システム構築

これらはライフサイエンス分野のみならず
日本の再生にとって緊急の課題である。